

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月22日現在

機関番号：13901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02244

研究課題名(和文) 書物取次ネットワークと小売書店に関する研究：旧満洲・朝鮮半島・樺太等を中心に

研究課題名(英文) Research on book distribution networks and retail bookstores: Manchuria, Korean Peninsula, and Sakhalin

研究代表者

日比 嘉高(Hibi, Yoshitaka)

名古屋大学・人文学研究科・准教授

研究者番号：80334019

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、地域別の個別実証研究の進展と、書物流通ネットワークについての理論的な追求とに大きく分けられる。個別地域としては台湾、朝鮮半島、樺太、満洲について調査分析を進めた。台湾については新高堂書店を軸にしなが、1920年代から1940年代までを考えた。朝鮮半島については日本出版配給各部署会社時代までを分析した。樺太については書店史を中心に1910年代から1940年代までを調査した。満洲については満洲書籍配給各部署会社時代までを考察した。またこのほか、統制経済と書物流通を考える研究も行った。ネットワークと空間に関する理論的な考察も行い、空間の生産、複数性、接触領域などを鍵概念とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究のもっとも顕著な意義は、書物流通という知の拡散と規制に関わる仕組みを歴史のかつ地域横断的に追求した点にある。従来の出版流通研究は、そのほとんどが日本国内にのみ焦点を当ててきた。これに対し、本研究は内地と外地を結んだ書物流通に焦点を当てたところに特色がある。この研究によって、国境に縛られない文化の広がりが見えてきただけでなく、出版流通が重層的かつ多中心的なネットワークになっていたこと、書店が植民地都市の文化形成に大きな役割を果たしたこと、店主や店員、顧客が多民族であったことなどが見えてきた。書物という多くの分野に関わる題材を扱うことで、広い波及効果を持つ研究となったと自負している。

研究成果の概要(英文)：The results of this research can be broadly divided into the progress of region-specific research and theoretical pursuit of book distribution networks. As for particular regions, I researched Taiwan, Korean Peninsula, Sakhalin and Manchuria. On Taiwan, the history from the 1920s to the 1940s was considered focusing on Niitakado Shotenr. On the Korean Peninsula, I analyzed the period until the time when Japan Publishing Co., Ltd. was established. Regarding Sakhalin, the period from the 1910s to the 1940s was investigated, mainly in terms of retail bookstores. On Manchuria, the period until the Manchurian book distribution company Co., Ltd. was examined. The theoretical research on the network and the space was also carried out. Production of the space, multiplicity, contact area, etc. were made to be a key concept.

研究分野：日本近現代文学・文化論

キーワード：書物流通 書店 ネットワーク 外地 満洲 朝鮮 樺太 台湾

1. 研究開始当初の背景

外地と内地を結んだ書物流通と外地書店については、出版・書店関係者の回想があり、有用な情報を提供しているが、不確かな情報も少なくなかった。また海外取次書店である大阪屋号書店については注目が集まっていたが、研究はさほど進んでいるとはいえなかった。一方、申請者自身はこの分野について研究を積み上げてきていた。出発は米国における日本語で書かれた新聞や雑誌の流通、日本人街の小売書店についての研究だった。その後、視野を東アジアへと広げ、書物流通の問題を環太平洋規模で展開する研究に従事し始めていた。

2. 研究の目的

本研究はこれまでの申請者の研究をさらに発展させ、戦前期の帝国日本の各都市、各地方を結んで展開した書物の流通ネットワークを、海外取次専門の大阪屋号書店、海外各地に店を構えた小売書店の活動に注目することで明らかにしようとするものである。

東アジア各地やハワイ、北米などへの日本人の侵出にともない、20世紀初頭から各地に日本人経営の書店が誕生した。1910年代からは各地域で徐々にこうした外地書店の組織化が進み、同時に内地とそれら書店を結ぶ書物取次網も機能を始めた。この研究では、申請者自身のこれまでの研究成果を引継ぎながら、とりわけ取次書店の大阪屋号書店、および旧満洲、樺太、ハワイ地域の小売書店に焦点を当て、帝国日本の書物流通の鳥瞰図を明らかにするものである。

3. 研究の方法

研究方法としては、文献資料の収集分析にもとづく考察を基軸としながら、それに現地調査や、海外の研究者との研究交流による補強を加えた。文献資料としては、取次業者の社史、回想、同業者組織である書籍商組合の組合関連資料、書店関係者および出版関係者の社史、回想、業界紙関係者の回顧座談会、文学者をはじめとした書店の利用者の回想、新聞・雑誌記事などを、主たる資料体とした。

また情報論や社会学、歴史学、哲学などにおけるネットワーク論や空間論を参照し、個別の実証研究をいかにして広域的かつ歴史的な見取り図として提示するかについて、理論的な考察を深めた。

「研究の目的」で述べたように、本研究は多民族性への注目を一つの研究の特色とする。中国、米国、韓国、台湾の研究者との連携を重視し、調査出張や学会などにおける意見交換や情報収集を活発に行った。

具体的な方法としては以下のような内容である。

1 海外取次書店の分析

大阪屋号書店、三省堂、東京堂、丸善などについて調査研究を行う。

大阪屋号書店など取次業者の基礎資料について、入手可能なものを購入・収集し、分析する。

三省堂、東京堂、丸善などの同業取次業者の関連資料を収集し、分析する。

地域ごとの流通・小売研究

満洲

旧満洲、旧関東州における日本語書店の展開および書物の流通状況がどのようなものであったのか、書店関連資料、取次関連資料、出版社関係資料などをもとに追跡調査する。

1 『満洲日日新報』など日本語新聞紙上の書店広告の分析を進め、活動の実態を調べる。

2 書店の社史や関係者の回想などの小売書店関連資料を収集分析する。

3 旧満洲・旧関東州において海外出張調査を行う。

3-1 大連、瀋陽の地域図書館、東北師範大学などの図書館大学図書館において資料収集・調査を行う。

3-2 大連、瀋陽において実地調査を行う。

樺太

樺太における日本語書物の流通状況がどのようなものであったのか、書店関連資料、取次関連資料、出版社関係資料などをもとに追跡調査する。

1 『樺太日日新聞』『樺太新聞』などの新聞の広告から各書店の活動実態を調べる。

2 札幌富貴堂などの北海道の有力書店兼取次業者の関連資料を収集分析する。

3 樺太・北海道へ書物を送った出版業者の関連資料を収集分析する。

朝鮮半島について、必要に応じて前科研と接続させながら補足的調査を行う。

台湾について、必要に応じて前科研と接続させながら補足的調査を行う。

研究計画のとりまとめを行う。

4. 研究成果

2015年度においては、台湾、朝鮮半島、樺太の外地書店についての調査研究を行った。その成果としては以下がある。研究発表としては、第二次世界大戦以前の内地外地を結んだ取次業者を見渡した「戦前外地の書物流通 取次を中心に」、同様の関心から朝鮮半島の小売書店に焦点を当てて考察した「内地 - 外地を結ぶ書物のネットワークと朝鮮半島の小売書店 日記時代を中心に」、台湾に焦点を当てて考察した「1945年以前の台湾における日本語書籍雑誌の流通 書店、組合、新聞社」がある。

論文としては、上述の発表を論文化した「内地 - 外地を結ぶ書物のネットワークと朝鮮半島の小売書店 日記時代を中心に」を公表している。なお、本研究課題に関連して「樺太における日本人書店史ノート 戦前外地の書物流通(3)」(『JunCture 超域的日本文化研究』第7号、2016年3月28日)の論考も発表している。またその他の記事として、「内地・外地の出版関連主要法令対照年表・稿 戦前外地の書物流通(2)」(『跨境 日本語文学研究』第2号、2015年6月)、「外地書店を追いかける(5) 台湾・新高堂と台湾日日新報社書籍販売部」(『文献継承』金沢文圃閣、第27号、2015年10月)、「外地書店を追いかける(6) 台湾日日新報社の台湾書籍商組合攻撃」(『文献継承』金沢文圃閣、第28号、2016年3月)がある。

また、2015年11月には台湾での図書館及び現地調査も行った。

2016年度においては、書物流通ネットワークの理論的な検討、満洲の書物流通について、台湾の小売書店および小売組合について、それぞれ調査分析を行った。

ネットワーク論については、日本近代文学会において、「ネットワーク・空間・ヘゲモニー 内地/外地を結ぶ書物流通」と題して報告を行った。書物流通が植民地支配下において「空間の(再)生産」(アンリ・ルフェーブ)を行い、その空間およびネットワークの配置が帝国のヘゲモニーの維持・行使にどのように関わったかについて考察したものである。この問題は、支配的ネットワークの形成・運用と抵抗のネットワークとの関係を考えるという課題にもつながっている。また流通する商品である「書物」というものの考察も含まれる。さらに、ネットワークに関わる主体(間)の行動も考えること、帝国の書店網が多民族の接触空間を創り出していることなどを指摘した。

満洲については8月に調査旅行を行い、東北師範大学、吉林大学、長春市の公立図書館、大連市の公立図書館において調査を行った外、ハルビン、長春、瀋陽、大連、旅順の各都市の旧日本人居留地について踏査を行った。

台湾については、12月に台北の国立台湾図書館で調査を行った外、次の論考を発表している。「外地書店を追いかける(6) 台湾日日新報社の台湾書籍商組合攻撃」(『文献継承』金沢文圃閣、第28号、2016年3月、pp.4-7。「外地書店を追いかける(7) 台湾書籍雑誌商組合のこと」(『文献継承』金沢文圃閣、第29号、2016年10月、pp.4-6。

2017年度においては、書物流通ネットワークの理論的な検討、戦時下の書物流通と経済統制について、台湾の小売書店および小売組合について、それぞれ調査分析を行った。

ネットワーク論については、「マリヤンの本を追って 帝国の書物ネットワークと空間支配」(河野至恩・村井則子編『日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ』勉誠出版)を発表した。中島敦「マリヤン」を横糸にしなが、ネットワークと空間に関する理論的な考察を行った。植民地支配下における「空間の生産」、ネットワークの複数性、均質化と差異化、異民族が出会う接触領域、抵抗のネットワークなどについて検討している。台湾については、4月に台北市内の旧日本人街の踏査を行い、あわせてこれまでの研究成果を踏まえて、台湾政治大学において「帝国支配と書物流通 書店と取次の役割を考える」という講演を、台湾東呉大学において「第二次世界大戦以前の台湾における日本語書店と書物流通」という講演を行っている。

また、台湾および大阪、九州、満洲に関して次の論考を発表している。「外地書店を追いかける(8) 大阪、九州、台湾の共同販売所と大阪屋号書店満鮮卸部」(『文献継承』金沢文圃閣、第30号、2017年5月、pp.11-15。「外地書店を追いかける(9) 台湾書籍株式会社と1930年代末の台湾書籍界」(『文献継承』金沢文圃閣、2017年10月、第31号、pp.4-8。「外地書店を追いかける(10)戦時下の台湾書籍界」(『文献継承』金沢文圃閣、第32号、2018年3月、pp.12-15。戦時下の書物流通については、第5回東アジアと同時代日本文学フォーラムにおいて、「統制経済と書物流通 帝国の国策書籍配給会社」という研究発表を行った。日本、満洲、朝鮮、台湾の書籍配給会社について横断的に考えたものである。

2018年度においては、引き続き書物流通ネットワークの理論的な検討、満洲の書物流通と小売書店の歴史についての調査分析を行い、最終年度として研究の取りまとめを行った。

理論的な考察を軸としなが、満洲や台湾の例を用いて報告した研究発表とし

て、「Inheriting Books:Overseas Bookstores, Distributors, and Their Networks,」27th Annual Meeting of the Association of Japanese Literary Studies, UC Berkeley. 2018年9月20日がある。また書物の物質性に力点を置いた報告として、「物と知をどうつなぐか 書物流通研究と文学研究」(立教大学×名古屋大学 合同研究会 2019年3月14日、教員セッション「近現代文学・文化研究の「いま」と「これから」」)がある。満洲における個別研究として、「満洲」における書物流通 満洲書籍配給株式会社以前、以後」(東アジアと同時

代日本文学フォーラム 第6回、復旦大学、2018年10月20日)がある。また日本語文学との
 関連性に焦点を当てた報告として、"Japanophone Literatures and Books: materiality,
 distribution networks and immigrant writers." Japanese Diaspora to the Americas:
 Literature, History and Identity, at Yale University, 2019年5月3日がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 5 件)

日比嘉高	査読有	詩がスポーツをうたうとき 1932年のロサンゼルス・オリンピックの場合	単著	『跨境 日本語文学研究』	2015年 6月	第2号	pp.111-124
日比嘉高	査読有	内地 - 外地を結ぶ書物のネットワークと朝鮮半島の小売書店 日配時代を中心に	単著	『翰林日本學』 翰林大學校日本學研究所	2015年 12月	第27輯	pp.31-50
日比嘉高	査読有	樺太における日本人書店史ノート 戦前外地の書物流通(3)	単著	『JunCture 超域的日本文化研究』	2016年 3月	第7号	pp.58-67
日比嘉高	査読無	国際スポーツ・イベントによる主体化 一九三二年のロサンゼルス・オリンピックと田村(佐藤)俊子「侮蔑」	単著	『名古屋大学文学部研究論集文学』	2016年 3月	第62号	pp.245-253
日比嘉高	査読無	戦前外地の書物取次 大阪屋号書店、東京堂、関西系・九州系取次など	単著	『Intelligence』 20世紀メディア研究所	2016年 3月	第16号	pp.134-148

〔学会発表〕(計 9 件)

日比嘉高	戦前外地の書物流通取次を中心に	20世紀メディア研究所：第92回研究会	早稲田大学	2015年4月 25日
日比嘉高	内地 - 外地を結ぶ書物のネットワークと朝鮮半島の小売書店 日配時代を中心に	翰林大學校日本學研究所 2015国際学術会議	翰林大學校	2015年8月 28日
日比嘉高	1945年以前の台湾における日本語書籍雑誌の流通 書店、組合、新聞社	2015年度輔仁大学日本語文学科国際シンポジウム×「東アジアと同時代日本語文学フォーラム」台湾大会	輔仁大学 (台湾)	2015年11月 14日
日比嘉高	ネットワーク・空間・ヘゲモニー 内地/外地を結ぶ書物流通	日本近代文学会 2016年度秋季大会シンポジウム	福岡大学	2016年10月 15日
日比嘉高	内地/外地をまたぐ書籍流通史をめざして 転移・国策・ネットワーク	日本出版学会 2017年度第4回(通算第102回)関西支部会	奈良女子大学	2017年10月 21日
日比嘉高	統制経済と書物流通 帝国の国策書籍配給会社	東アジアと同時代日本文学フォーラム 第5回	東国大学	2017年10月 29日
日比嘉高	Inheriting Books: Overseas Bookstores, Distributors, and Their Networks	27th Annual Meeting of the Association of Japanese Literary Studies	UC Berkeley	2018年9月 20日
日比嘉高	「満洲」における書物流通 満洲書籍配給株式会社	東アジアと同時代日本文学フォーラム 第6回	復旦大学	2018年10月 20日

	以前、以後	回		
Yoshitaka HIBI	Japanophone Literatures and Books: materiality, distribution networks and immigrant writers.	Japanese Diaspora to the Americas: Literature, History and Identity	Yale University	2019年5月3日

〔図書〕(計 1 件)

日比 嘉高	日本文学の翻訳と流通 近代世界のネットワークへ	共著	2018年 1月12日	勉誠 出版	288 頁	河野至恩・村井則子編、担当「マリヤンの本を追って 帝国の書物ネットワークと空間支配」pp.243-259
----------	-------------------------	----	----------------	----------	----------	--

6. 研究組織

(1) 研究分担者

なし

(2) 研究協力者

なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。